

長期研修生作成 幼小接続の視点を大切にした学習指導案の提案

◇長期研修制度について

現職の小学校教員が京都教育大学で1年間、幼児教育について学んでいる。大学での講義と附属幼稚園をはじめとする幼児教育施設での保育参観、在籍する小学校での1年生の参観を日常的に行う往還型の研修を実施している。

◇学習指導案の作成について

幼児教育と小学校教育の円滑な接続について学ぶ中で、幼児教育経験のない小学校教員が接続を意識して授業をするのは難しいのではないかと、授業をする上で、学習指導案があれば、接続を意識した授業が実施できるのではないかと、という考えから指導案を作成している。

◇長期研修生1年間の学びの成果物として掲載

「幼小接続は大切と言われるけど、具体的にどうすればよいか、何をすればよいかわからない。」という声がよく聞かれる。京都府幼児教育センターのホームページに掲載することで、京都府内をはじめ他府県の先生方にも、広く活用しご自身の授業の参考にさせていただけたら幸いである。

目 次

◇表紙・作成に当たって	1
◇指導案の見方	3
◇国語科「ひらがなたんけん」	4
◇算数科「かずとすうじ～教室の数を数えよう」	6
◇算数科「かずとすうじ」	8
◇生活科「いくぞ！がっこうたんけんたい」	10
◇音楽家「うたっておどってなかよくなろう」	14
◇図画工作科「はじめての絵の具」	16
◇体育科 機械・器具を使っでの運動遊び「遊具であそぼう」	18

幼小接続の視点を大切にした 学習指導案の提案

幼小接続の視点をふまえた学習指導案作成にあたって

この1年間、京都教育大学で幼児教育について学び、幼児教育施設を多数観察させていただくなかで、幼児教育と小学校教育の違いに驚いた。遊び中心の幼児教育では、子どもの主体性を大切にされ、子どもたちの姿から保育者が願いをもって保育に取り組んでいる。小学校は各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。1時間毎の学習のねらいを達成するため、教師主導の授業が進められていくことが多くなる。他にも、評価の考え方の違いや文化の違い、組織の大きさの違いなど多くのことが異なる。幼児教育について知れば知るほど、小学校教育との大きな段差を感じる。この段差こそが1年生がとまどいや混乱を起こす原因である。こうした幼児教育と小学校教育の段差を取り除き、子どもたちが新しい学校生活になめらかに移行していくため幼小連携・接続が必要となる。

平成29年告示の小学校学習指導要領第1章総則の中に「小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」と明記されている。また、主体性や多様性が重要視される社会の流れの中で、小学校教育が幼児教育から学ぶことはたくさんあると感じている。

小学校の先生が「幼小連携・接続が大切」ということを理解しても、多忙な日々の中で今までの学習スタイルを変えていくことは、容易ではない。カリキュラム・マネジメントを充実させていく必要がある。そこで、少しでもスタートカリキュラムを前向きに「やってみたい」「私にもできそうだな」と思える先生が1人でも増えるようにするにはどうしたら良いかを考えた。小学校入学当初の幼小接続の視点をふまえた学習指導案の一例があれば、授業のイメージをもつことができるのではないかと、また、私が4月に小学校現場に戻ったときにこの指導案を実践して子どもたちの反応や育ちを感じて、カリキュラム・マネジメントしていきたいと思い、学習指導案を作成することに決めた。

今回の指導案は生活科以外略案で書いているが、これらの授業1時間だけでなく教育活動全体を通して、幼児期の学びを生かした生活や授業を考えていくことが、架け橋期では大切だと思う。私の考えた指導案は幼小接続の視点を踏まえた一例である。地域によって1校に入学してくる幼児教育施設の数や教育内容、子どもたちの実態等の違いがある。この指導案を参考に、各校に合わせたものにアレンジしてスタートカリキュラムを実践していただければ幸いである。

国語科学習指導案 (略案)

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○○名
- 2 日 時 令和○年4月○日 ○曜日 第○校時 (: ~ :)
- 3 場 所 ○○教室
- 4 単元名 「ひらがなたんけん」

5 単元について

本単元では文字学習のスタートとして、平仮名の読み方、書き方を学習する。平仮名一文字一文字の「とめ」「はね」「はらい」などの書き方や書き順を理解し、語句や文の中で正しく書けるようになることをねらいとしている。学習指導要領に記されている低学年の書写の内容は「姿勢や筆記用具の持ち方を正しくして書くこと」「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと」「点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと」とされている。文字を丁寧に書くことは、他の文字と区別するために大切であることが伝わるようにしたい。

6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導 (特に大切にしたい3つの視点)

児童は幼児期の遊びや生活の中で文字に興味をもち、ごっこ遊びの看板を書いたり、友だちにお手紙を書いたりする経験の中で、文字には人に思いを伝える役割があることに気づいている。幼児期で育まれた文字への関心や感覚を生かし、小学校では正確な筆順や字形を学び、文字の利便性を感じられるよう指導することが大切である。文字学習のスタートでつまずきや苦手意識が芽生えないよう、最初から完成形を目指さず、1人1人の学びを楽しむ姿勢を支援していくことが重要である。また、幼児期には遊びを中心として動きのある学び方を経験しているので、学びの形態に変化をつけながら、書きたくなる体験や活動を取り入れて、ひらがなを書く必然性を大切にしたい。

数量や図形標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝えあい	思考力の芽生え
学習する平仮名に関心を持ち、探したり、書いたりする姿。	友だちと見つけた言葉を伝え合い、受け止めたり、認め合ったりする姿。	探究心をもって、多くの言葉を見つけようとしたり、平仮名の学習に興味関心をもって主体的に関わろうとしたりする姿。

7 本時の目標

「つ」のつくものをたくさん見つける。(主体的に学習に取り組む態度)

「つ」の読み方・書き方が分かる。(知識・技能)

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
導入 15分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「つ」のつくものをたくさんみつけよう</p> <p>○「つ」のつくものを見つけに探検に出かける。 例：机、土、教室…</p>	グループ	<p>○グループごとにタイマーを持たせてタイマーが鳴ったら教室に戻るように伝える。</p> <p>○「つ」は1文字目でなくても良いことを伝える。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">十分満足できると判断される状況</p> <p>○「つ」のつく言葉に気づくことができる。【主体的に学習に取り組む態度】（観察）</p> <p>○「つ」の読み方・書き方を理解し字形を整えて書いている。【知識・技能】（プリント）</p>
展開 20分	<p>○グループごとに見つけたものを発表する</p> <p>○「つ」の書き方を学ぶ。</p>	一斉	<p>○児童が発表した言葉を板書し、視覚的に分かりやすいようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">見つけてきた言葉を書けるように書き方を覚えたいという必然性を大切にする。</p> <p>○名前に「つ」の入っている友だちを紹介して、自分の名前に入っている文字を学習する嬉しさを共有したり友だちへの関心が広がったりするようにする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">努力を要する状況への手立て</p> <p>○教師も一緒に探検し、「これは何？」とたずねてみる。</p> <p>○字形が整わないときはなぞって書いたり、文具を工夫したりして支援する。</p>
まとめ 10分	<p>○「つ」を書く練習をする</p> <p>○「つ」のつく言葉を声に出して言う。</p>	個別	<p>○「つ」の書き方を指導し、プリントに練習させる。</p> <p>○直しは最小限にして、「つ」を書けた喜びや意欲を大切にする。</p> <p>○たくさん褒める。</p> <p>○文字と音が対応するよう文字を指しながら音読させる。</p>	

最初は1時間1文字で進めるが、慣れてきたら2文字にする。毎時間探検は難しいので、1週間で学習した5文字のひらがなをまとめて探しに探検に出かける、教室で写真を見て言葉を見つける等の工夫をする。

算数科学習指導案 (略案)

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○○名
- 2 日 時 令和○年4月○日 ○曜日 第○校時 (: ~ :) ★2時間
- 3 場 所 ○○教室
- 4 単元名 「かずとすうじ～教室の数を数えよう～」
- 5 単元について

本単元では、具体物を数える活動を通して 10 までの数について個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解することをねらいとしている。学習指導要領の第1学年の内容 [A 数と計算] の中に「ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること」「個数や順番を正しく数えたり表したりすること」と記されている。算数科で学習する内容の基礎となる経験を繰り返すことや、算数を豊かに学び続ける上で必要となる感覚の育成が重要である。本単元では、具体的な活動や体験を取り入れて数量に親しむことができるようにする。

- 6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導 (特に大切にしたい3つの視点)

幼児期には遊びや生活の中で、どちらが多いか数を数えたり、順番に並んだり、カレンダーを見て今日の日をちを知ったりする様々な豊かな環境から、身近にある数字に興味をもち数量へ親しむ体験を重ねている。その経験を生かして本時では、教室の数を数える具体的な活動を通して、数えることを楽しめるようにしたい。どうしたらたくさんある教室の数を正確に数えることができるのか。子どもたちが知恵を出し合い、試行錯誤して方法を考え、それを実行していく。自分事として問題を捉え、主体的に考えていくことが重要である。また、学校全体の教室の数に目を向けることで生活科の学校探検と合科的・関連的な指導を行うことが可能となる。

<p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>教室の数に注目し、1、2、3…と声を出して数えたり、「教室の数って多いな」という数量を感じたりする姿。</p>	<p>言葉による伝え合い</p> <p>教師や友だちに自分の考えた方法を伝えたり、教室の数を数えて伝え合ったりする姿。また、友だちの考えを聞く姿。</p>	<p>思考力の芽生え</p> <p>今までの経験を活かしてどうしたら正確に教室の数を数えることができるのか自ら判断したり、考え直したりする姿。</p>
---	--	--

- 7 本時の目標

- ・教室の数を数える方法を考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・教室の数を数えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

算数科学習指導案 2 (略案)

学校名〇〇市立〇〇小学校

指導者名 〇〇 〇〇

- 1 対 象 第1学年〇組 〇〇名
- 2 日 時 令和〇年4月〇日 〇曜日 第〇校時 (: ~ :)
- 3 場 所 〇〇教室
- 4 単元名 「かずとすうじ」
- 5 単元について

本単元では、具体物を数える活動を通して 10 までの数について個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解することをねらいとしている。学習指導要領の第1学年の内容 [A 数と計算] の中に「ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること」「個数や順番を正しく数えたり表したりすること」と記されている。算数科で学習する内容の基礎となる経験を繰り返すことや、算数を豊かに学び続ける上で必要となる感覚の育成が重要である。本単元では、具体的な活動や体験を取り入れて数量に親しむことができるようにする。

- 6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導 (特に大切にしたい3つの視点)

幼児期には生活の中で、どちらが多いか数を数えたり、順番に並んだり、カレンダーを見て今日の日を知ったりする様々な豊かな経験から、身近にある数字に興味を持ち数量に慣れ親しんできている。鬼ごっこやお店屋さんごっこ、すごろく、トランプなど遊びの中でも数は子どもたちにとって身近な存在です。その経験を生かして本時では、ジャンケンをしてブロックが増えたり減ったりするゲームを通して数に興味関心をもち、個数を比べることや数えること、数の大小や順序を学んでほしい。また、音の回数のように目に見えないものや校庭の木の本数のように手元で操作できないものも、それらとブロックを1対1に対応させれば分かりやすく数えることができるようになることにも注目させたい。また、新しい環境の中で安心して過ごすことができるには、教師や友だちとの関係づくりが重要である。なるべく、友だちと関わり合える活動を取り入れながら、教師や友だちに親しみを感じ、安心して自己を発揮し積極的に生活できるようにしていきたい。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 数図ブロックが増えたり減ったりすることを楽しむ姿。集中して音の数を数えようと指折り数える姿。	言葉による伝え合い 自分から初めて出会う友だちに声をかけたり、自分の思いや考えを言葉にして表わしたりする姿。	道徳性・規範意識の芽生え 初めて出会う友だちと、ゲームを通して関わり、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿。
---	--	--

- 7 本時の目標

- ・ 1 から 10 までの数をブロックと対応させることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・ 6 から 10 までの個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。(知識・技能)

生活科 学習指導案

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○名
- 2 日 時 令和○年○月○日 ○曜日 第○校時 ○：○～○：○
- 3 場 所 ○○教室
- 4 単元名 「いくぞ！がっこうたんけんたい」

5 単元について

入学直後の1年生は、初めての場所に緊張しながらも校内の施設、先生、友だちに好奇心を膨らませている。本単元では、初めての場所を探検するというドキドキ感を大切にしながら、友だちと仲良く校内を探検する。一度大まかに校内を探検した後、自分のお気に入りの場所、もっと知りたい場所を自己選択させ、もう一度詳しく探検する。自己選択させることは主体的な活動を行う上で重要である。繰り返し行うことで記憶にも残りやすく、これから6年間の学校生活を過ごす安心感にもつながる。また、自分の探検した場所を友だちと伝え合うことで知識が広がり、次への意欲へとつながっていく。

6 幼小接続の視点

子どもたちは慣れ親しんだ幼児教育施設から卒園し、小学校へと入学してくる。小学校の施設は1年生にとっては広く、不安も大きいと思われる。また、幼稚園、保育所、こども園と異なる施設で幼児期を過ごしている子どもたちが入学してきているので、子どもたちの育ちや経験も様々である。そのことをふまえて、それぞれの園にはどのような場所があったのか、どのような経験をしてきたのかを子どもたちに聞きながら進めていきたい。幼児期には自分で遊びを決めて園庭、保育室、遊戯室等を自由に移動して過ごしている。その育ちを生かして、自分たちで校内を探検できるように環境や教材を工夫して指導する。

7 単元目標

学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友だちについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をすることができるようにする。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での生活は様々な人と施設と関わっていることが分かる。	学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友だちなどについて考えたり、考えたことを友だちに伝えたりする。	楽しく安心して遊びや生活をしようとする。

9 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導（特に大切にしたい3つの視点）

健康な心と体	協同性	社会生活との関わり
自分の決めたお気に入りの場所や人やものについて心と体を動かして、見通しをもって調査する姿	学級のみみんなで学校探検をするという共通の目的を持って話し合ったり、役割を分担したりして実現に向けて力を発揮してやり遂げる姿	学校探検を通して、学校生活を支えている人の存在に気付いたり、学校の施設について情報を取り入れようとしたりする姿

10 単元指導計画

次	時	ねらい・学習活動	評価基準 【評価の観点】 〈評価方法〉
一	1	<p>○園にはどんな部屋や場所があったのか、好きだった場所などを伝え合う。</p> <p>・園での生活を思い出し、自信をもって活動できるようにする。</p> <p>・小学校で知っている部屋や場所、行ってみたい部屋や場所、会いたい人について伝え合う。</p> <p>・どんな方法で探検したいか子どもたちの考えを聞く。</p>	<p>◇幼児期での生活を振り返り、進んで話をしたり聞いたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 〈活動観察〉</p>

	2 3 本 時	<p><がっこうたんけんたい></p> <p>○学校探検に出かける。</p> <p>・前時の子どもたちの意見を取り入れて探検に出かける。</p>	<p>◇グループで協力して、学校探検を楽しんでいる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>〈活動観察〉</p>
二	4	<p>○もっと詳しく知りたい場所、もの、人を決める。</p> <p>・探検に行った経験から、自分のお気に入りの場所、もの、人を決める。</p>	<p>◇自分で好きな場所、もの、人を考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈ワークシート〉</p>
	5 6	<p><お気に入りのたんけんたい></p> <p>○自分の決めた場所、もの、人の調査に行く。</p> <p>・タブレットで写真をとったり、絵にかいたりして調査する。</p> <p>・誰が使うのか、どんな時に使うのか、自分たちの教室と違うところはどこかなど詳しく調べる。</p> <p>・教室の数に注目した児童がいれば、算数科との合科的・関連的な学習を行う。</p>	<p>◇お気に入りの場所、もの、人を詳しく調べている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈活動観察〉</p>
	7 8	<p>○調査したことをまとめる。</p> <p>・写真や絵、文字などで調査してきたことをまとめる。</p>	<p>◇お気に入りの場所、もの、人の特徴に気づき、表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈ワークシート〉</p>
	9 10	<p>○発表する。</p> <p>・調査してみんなに知ってほしいおすすめポイントを発表する。</p>	<p>◇まとめたことを伝えようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>〈活動観察〉</p> <p>◇発表したり、友だちの発表を聞いたりして、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>〈ワークシート〉</p>

11 本時の目標

- 友だちと協力して、学校探検を楽しむ。(主体的に学習に取り組む態度)
- 各教室のミッションをクリアして、教室カードを集める。(主体的に学習に取り組む態度)

12 本時の展開 (2.3/10)

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
導入 5分	ともだちとちからをあわせて、きょうしつカードをゲットしよう。			十分満足できると判断される状況
	○学校探検の説明をする。	一斉	○説明は最小限にし、児童の意欲が下がらないよう注意する。	
展開 60分	探検の方法は子どもたちの実態に合わせて創意工夫する。教師が先頭で列になって各教室を見て回るというスタイルは避けたい。			○友だちと協力して、進んで学校探検を楽しんでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】(活動観察)
	○探検スタート 各部屋でミッションをクリアしたら教室カードをもらおう。 (例：理科室…骸骨と握手 音楽室…トライアングルを鳴らす。)	グループ	○探検の手掛かりになるように地図をわたす。 ○各部屋に担当教師がいるようにする。 ○困ったときは教室に戻ってくるように声をかける。	
	○全部のカードが集められたら教室へ戻る。	グループ	○早く戻ってきたグループから作業できるように準備しておく。	
まとめ 15分	○カードをワークシートに貼り付ける。	個別		努力を要する状況への手立て ○教師も一緒に探検をする。
	○どんな教室があったか、面白かったこと楽しかったことを発表する。	一斉	○全員戻ってきてから話をする。 次の時間に自分のお気に入りの場所を決めることを予告しておく。	

カード集めに夢中になる児童もいると予想されるが、その教室の特徴が伝わる楽しいミッションを考えて、子どもたちの記憶に残るようにする。教室カードを2年生に作ってもらうなどして、他学年とのつながりをもち、1年生の入学をみんなが心待ちにしていたことが伝わるようにする。

音楽科学習指導案 (略案)

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○○名
- 2 日 時 令和○年4月○日 ○曜日 第○校時 (: ~ :)
- 3 場 所 ○○教室
- 4 題材名 「うたっておどってなかよくなろう」

5 題材について

本題材では、楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じることをねらいとしている。入学して間もない児童が音楽に親しみ「歌うことが好き」と思えるようにすることを大事にしながら、興味・関心をもって取り組むことができる歌唱の活動を進めることが重要である。

6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導 (特に大切にしたい3つの視点)

幼稚園教育要領の5領域の感性と表現に関する領域「表現」の内容に「(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と記されている。音楽は乳幼児期から子どもたちの生活に自然と溶け込み、生活を豊かにしている。架け橋期においては、幼児期に育まれた感じたことや考えたことを自分なりに表現する力をつなげていきたい。そのためにまずは、幼児期に親しんだ音楽を新しい学級の友だちと互いに声をそろえて歌うことで緊張や不安を取り除きたい。そして、音楽に合わせて遊んだり、体を動かしながら音楽を聴いたりする活動を効果的に取り入れて、友だちと協働して音楽活動する楽しさを感じてほしい。

豊かな感性と表現	言葉による伝え合い	協同性
友だちと声を合わせて歌ったり、表現したりすることを楽しんでいる姿。自分なりのイメージを豊かにもち、表現しようとする姿	自分の考えた歌詞を友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりする姿。言葉を通して教師や友だちと心を通わせる姿	新しい友だちと積極的に関わり、友だちの思いや考えなどを感じながら行動する姿。共通の目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力する姿

7 本時の目標

- ・友だちと声を合わせて歌を歌うことを楽しむ。 (主体的に学習に取り組む態度)
- ・「そうだったらいいのにな」の歌詞を自分なりにアレンジして歌うことができる。
(思考・判断・表現)

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
導入 15分	○知っている歌、好きな歌を発表する。	一斉	○それぞれの幼児教育施設で好きだった歌や手遊びを聞く。思い出せない児童には好きな歌を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">十分満足できると判断される状況</div> ○歌いたい歌を伝え、友だちと声を合わせて歌を歌うことを楽しむ。 【主体的に学習に取り組む態度】 （観察）
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 昨年度の引継ぎの中で、よく歌っていた歌や好きだった手遊びを保育者から聞いておく。 </div> ○歌を歌う。	一斉	○児童から出てきた歌の中から多かったものを歌う。手遊びも取り入れながら楽しい雰囲気です。	
展開 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">オリジナルの「そうだったらいいのにな」をうたおう</div>			
	○「そうだったらいいのにな」の歌を歌う。	一斉	○初めて聞く児童もいるので、先歌いをして不安がないようにする。	○「そうだったらいいのにな」の歌詞を自分なりにアレンジして、表現豊かに歌うことができる。 【思考・判断・表現】 （観察・発表） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">努力を要する状況への手立て</div> ○選択肢を提示して、選べるようにする。 ○好きなことを聞いてそこから歌詞を提案してみる。
	○歌詞を考える。 「うちのおにわがジャングルでこいぬのタローがライオンだ」の部分を自分のそうだったらいいなと思う歌詞を考える。	一斉	○みんななら、「どんなだったらいい」とたずねる。 ○意見がでないときは、教師が歌って紹介する。	
○グループで歌詞を考える。	グループ	○全ての歌詞ができなくても「○○になりたい」という意見が出れば、みんなで付け足しで考えられるようにする。 ○3、4人のグループで歌詞を考えさせる。難しいときはヒントカードを黒板に貼って、選択できるようにする。		
まとめ 10分	○考えた歌詞を発表する。	一斉	○グループごとに考えた歌詞を発表させる。マイクやステージなど気分があがる環境設定があると良い。	

本時はグループで歌詞を考えさせたが、平仮名の学習が全て終われば国語科でワークシートに歌詞を個人で考えさせて、音楽科で歌う学習も考えられる。児童のお気に入りの曲で替え歌ができそうな部分があれば、その曲で進めるのが良い。(例) ドロップスの歌、空にらくがきかきたいな、一週間 等

図画工作科学習指導案（略案）

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対象 第1学年○組 ○○名
- 2 日時 令和○年6月○日 ○曜日 第○校時（：～：）★2時間
- 3 場所 ○○教室
- 4 題材名 「はじめての絵の具」

5 題材について

本題材では絵の具を使って、自分の好きな形や色を選んだり、試すようにいろいろな形や色を考えたりしながら、感じたことや想像したことを表現することをねらいとしている。小学校に入学して初めて使う道具に心躍らせ、形や色などを楽しみ、友だちと関わり合いながら自分の思いをはっきりさせたり、つくりつつある形や色から発想を広げたりしてほしい。

6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導（特に大切にしたい3つの視点）

幼児期にはごっこ遊びの中で魔女になりきるために色画用紙を使って魔女の帽子を作ったり、色水を調合してお薬を作ったりしている。巻きずし屋さんをするためにシャリにはどんな材料が良いかプチプチや不織布など様々な材料を使って試す姿が見られる。子どもたちは遊びの中で制作意欲がわき、創造的につくったり表したりすることを楽しんでいる。幼児教育ではそのような道具や絵の具等は共同的に使用することが多く、個人での使用が少ない。つくる面白さや楽しさは幼児期に十分に育まれているので小学校でもその育ちをつなぎ伸ばしていく。そして、個人で使用する道具に愛着をもつことをプラスして指導していきたい。児童は新しい自分の絵の具を使う授業を楽しみにしている。説明は最小限にして、最初の絵の具との出会いで、「絵の具って面白いな」と思えるようにしたい。絵の具がかすれたり、水が多すぎたり、色が濁ってもそれもその子の表現として認め、次に生かしていけるような声かけが大切である。最初から多くを求めず、焦らず、つくりだす喜びを十分に味わえるような授業づくりが重要である。

豊かな感性と表現	協同性	自立心
絵の具の色彩や絵筆で描く感覚に心を動かし、表現することを楽しむ姿	友だちの表現の良さを認め、教え合う姿。友だちと一緒につくりだす喜びを味わう姿	絵の具を準備して片付けまで自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ姿

7 本時の目標

- ・絵の具をつかって、好きな色を選んだり、いろいろな形や線を描いたりして自分なりの表現を楽しむ。（主体的に学習に取り組む態度）

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
導入 10分	すてきなえのぐで、すてきなえをかいてみよう			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">十分満足できると判断される状況</div> ○絵の具をつかって、好きな色を選んだり、いろいろな形や線を描いたりして自分なりの表現を積極的に楽しむことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 （観察作品）
	○絵の具を触る。	一斉	○新しい絵の具を友だちと見せ合ったり、中に入っているものを触ったりするなど自分の道具に愛着をもたせる。	
展開 60分	○筆洗に水を入れる。	一斉	○水の量は半分を目安に入れさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">努力を要する状況への手立て</div> ○何に困っているのかを観察したり聞いたりにして、支援する。
	○パレットの使い方を知る。	一斉	○パレットの絵の具を入れる場所と混ぜる場所を伝える。絵の具の量や水の量、筆の使い方などは伝えない。説明は短く、子どもたちの興味関心を大切に	
まとめ 20分	○絵の具で好きな絵をかく。	個別 グループ	○グループで1枚の大きな模造紙に、好きな色で好きなものを描かせる。	
	何を描いても良いとなると、困ってしまう児童もいると思うので、黒板で教師が描いてみたり、線や形でも良いことを伝えたりして不安な気持ちが和らぐようにする。			
まとめ 20分	○他のグループの絵を見て回る。	一斉	○教室の中を自由に見て回り、自分のグループ以外の絵を見て回らせる。	
	○感想を伝え合う。	一斉	○初めて絵の具を使った感想や出来上がった絵を見ての感想などを伝え合う。	
	○片付けをする。	一斉	○パレットは筆で洗わず歯ブラシやスポンジで洗うことを伝える。 ○片付けが最後までできるよう時間を確保する。	

環境構成は4人で班机にしてその上に新聞紙を敷き、動かないようテープで固定しておく。新聞紙の上に模造紙をおいて4人でその模造紙に描いていく。机に段差がある場合は、机椅子なしで床にレジャーシートを敷いて行くと良い。

絵の具の学習は年間を通して数回あるので、1度に多くのことを指導せず、計画的に指導することが望ましい。

体育科学習指導案 (略案)

学校名 ○○市立○○小学校

指導者名 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○○名
- 2 日 時 令和○年4月○日 ○曜日 第○校時 (: ~ :)
- 3 場 所 ○○教室
- 4 単元名 器械・器具を使つての運動遊び「遊具であそぼう」
- 5 単元について

本単元では、固定遊具遊びに進んで取り組み、順番を守ったり、使い方のきまりを守ったりして友だちと仲良く遊ぶことをねらいとしている。これまでの運動経験から、恐怖心を抱く児童もいると思うが、遊び方を工夫したり、友だちから刺激をもらったりして、様々な体の動きを楽しく経験することができる単元である。

- 6 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導 (特に大切にしたい3つの視点)

生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせて生活することによって培われたものである。幼児期に他者との信頼関係の下で、自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組む中で自己を十分に発揮して遊びや生活を楽しみ、体を動かす気持ちよさを感じたり、生活に必要な習慣や態度を身に付けたりしている。竹馬や縄跳びに挑戦して、始めはうまくいなくても諦めずに繰り返し練習したり、友だちに教えてもらったりした経験は、小学校生活の様々な場面において前向きに行動する力となっていく。小学生になると座学での学習が増えて、幼児期ほど体を動かす機会が減っていく。そこで、体育科の授業ではなるべく運動量を確保することを大切にしていきたい。安全面に配慮することは重要だが、ルールやきまりの説明が長くなるよう注意しなければならない。1年生の体育科の内容は幼児教育で経験をしていることも多く、ゼロからのスタートではなく幼児期の学びを生かした指導が大切である。

健康な心と体	道徳性・規範意識の芽生え	自立心
次の活動を考えて準備をして見通しをもって行動したり、安全に気を付けて生活する姿。体を動かす様々な活動に挑戦する姿	友だちも自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する姿。思いやりをもって接する姿	のぼり棒や雲梯など苦手なことにも粘り強く取り組み、諦めずにやり遂げる姿

- 7 本時の目標

- ・固定施設を使った運動遊びの楽しさに触れ、その使い方を知るとともに基本的な動きや技能を身に付けることができる。(知識・技能)
- ・きまりを守り、安全に気をつけて友だちと仲良く運動遊びができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
導入 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">しょうがっこうのゆうぐであそぼう</div> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・体でジャンケン ・新聞紙で遊ぶ ・2人で息を合わせて 等	一斉	○体を使ってジャンケンをしたり、新聞紙が落ちないように走ったり、友だちとタイミングを合わせて立ち上がったりにして体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">十分満足できると判断される状況</div> ○固定遊具を使った運動遊びの楽しさに触れ、その使い方を知るとともに基本的な動きや技能を身に付け、遊び方を工夫することができる【知識・技能】(観察)
展開 25分	○遊具を知る。 (滑り台、雲梯、のぼり棒、鉄棒、ジャングルジム) ○遊具で遊ぶ。 ○もっと面白くなる工夫を考える。	一斉 一斉 個別 ペア	○幼児教育施設にはどんな遊具があったのかを想起させ、小学校の遊具を紹介する。 ○遊具で遊びながら、危険な場面があれば、児童を集めて安全に楽しく遊ぶためにはどうしたら良いか考えさせる。 ○遊具で遊ぶ時間を十分に確保する。 ○遊具にもっと面白く遊べる工夫を考えさせる。(例) のぼり棒にこぶを付けて登りやすくする。雲梯にレベルを書いて貼っておく。	○きまりを守り、安全に気を付けて友だちと仲良く見通しをもって運動遊びができる。【主体的に学習に取り組む態度】(観察)
まとめ 10分	○意見を交流する。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> レベル1 1つずつ レベル2 1つとばしで レベル3 2つとばしで </div> ○出た意見を全体で交流して、みんながよいなと思う意見は取り入れる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">努力を要する状況への手立</div> ○安心して遊べるよう補助する。

児童から出た意見を学年で話し合い、図画工作科や生活科でのぼり棒のコブ作りをしたりレベルを書いた看板を作ったりすると良い。

体育科では、体操服や水着に着替えるので着替えの指導も大切である。ゼロからのスタートではなく幼児期の経験を生かしての指導を心がける。